

### 口癖はないが…

工藤 莞司

自分には口癖はない。そう思っているのは本人だけで、周囲の者には、またいつものことかと思わせているようなことも、心当たりがない。口癖ではないが、仕事上日頃から気を付けていることはある。と言うよりは自然に身に付いてしまったのかもしれない。

我々専門職は、仕事柄自己の知識や経験だけでは判断や解決できない事柄は日常茶飯事的に生ずる。法律の解釈や商標の類否判断はその典型である。この場合、先輩や同僚に相談し、アドバイスを求めることになる。

小生がこの道に足を踏み入れたのはもう30数年前ことで、未だ特許庁でも研修制度が始まったばかりの頃であった。複数の先輩審査官が講師で、短期間に法律から実務まで一通り教わった。その時、先輩達は、異口同音に、質問をするときは、まず“自分の意見や結論案を持って来い”と強調された。右も左も分からない新人にはきついお達しで、分からないから質問するのではないかと反論したかったが、できるわけがない。

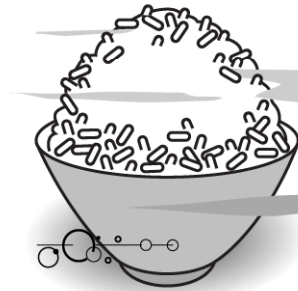
この意味を理解したのは、大分後になってからである。つまり、自分で可能な限り調べて一応の結論を出し、その答えがどうかを先輩達に確かめるべきというのが直接的な意味であろうが、含蓄深く、他人に聞く前に自分で勉強しろと言うことである。そうすることによって、自ずと知識が身に付き、また勉強癖も付くといことにも繋がるということであろう。

この教えは今でも通ずる。安易に周囲に尋ねて済ますことも可能だが、まずは自分で調べて一応の結論を得ることが必要だ。現在では、解説書やマニュアルは豊富だし、審判決例も簡単にアクセスできる。その上で、周囲にアドバイスを求めれば、より良い客観的な判断や結論を求めることができるだろう。その上に、時間も節約できる。

口癖ではないが、“君の考えは？、案は持っているの？”と尋ねることは多いと思う。

### ご飯 大盛で！

モリモリ



学生時代に体育会で胃袋まで鍛えてしまった名残で、三十代になった今でも人一倍の量を食べてしまいます。ランチで入ったお店のメニューに「大盛無料」

とか「おかわり自由」などの文字を見つけると、条件反射のように「ご飯大盛で！」とか「おかわりおねがいします！」などと必ず言ってしまいます。もう口癖の部類に入るのではないのでしょうか、必ず言いますし。

前の職場では、ランチに行く店が大体日替わりで決まっていた、メニューを注文しただけで、店員さんから「大盛で？」と確認されるようになっていました。大盛にしないと、体調でも悪いの？などと聞かれる始末。体調悪かったら外食すらしないと思うのですが、私の場合体調悪くても人並みに食べられると思われていたようです…。

最近のお気に入りの店は、銀座二丁目の「炙りや高本」です。この店は、当然ながらごはんおかわり自由で、おかずの量も多く、さらに大根おろしや生卵がサービスで自由に取れるので、ごはんがいっぱい食べられます。基本的な作戦は、まず、おかず2/3程度でごはん一杯目を済ませます。そして、残りのおかず+生卵+大根おろしでごはん二杯目を平らげます。ごはんは当然どちらも大盛で。至福のひとつときです。なお、この作戦は「さくら水産」でも有効です。

しかし、ガンガン運動していた学生時代ならともかく、社会人でこのような食生活を続けていては案の定太ります。いつまでもこんな食いしん坊キャラではまずいなあと反省しつつ、メニューを眺めると反省をすっかり忘れ、何でもおいしく食べられるのは健康な証拠と自分に言い聞かせ、今日も相変わらず「大盛で！」と注文しています。

# 【口癖】

my Favorite Phrase

## 口癖あれこれ

池田 正人

「エッ、エ〜〜 <("0")> !」

仕事が大変で突然キレた訳ではありません。

創英voice編集担当の某A嬢から原稿依頼されたとき、つい口から出てしまった第一声なのです。でも、これって、私の「付け人」某A氏の“おはこ”が移ってしまったのかも…。

当創英では、新人に一定期間微に入り細に入り指導をする「付け人制度」があり、A氏は私の創英入所当時から面倒をおかけした付け人であり、今も公私共々お世話になっている先輩でもあります。

A氏は私の息子+α程の若さながら、得難いほど温厚な尊敬すべき人であり、いつしか、A氏の口癖—感嘆詞かな—が私にも乗り移ってしまったようです。

しかし、A氏の感嘆詞は、前半部分の「エッ、エ〜〜」までは私と似ながら、末尾は「(^▽^) !」であって、ほのほのとした暖かさが余韻となって残ります。この点、私の切羽詰った「<("0")> !」とは大違いです。この辺り、某A氏の人としての余裕のなせる業かな…と、改めて感心したりします。

そういえば、末尾の絵文字も、某H所長の口癖（書き癖か？）が移ったみたいです。ただし、私は、まだ、H所長おはこの「ヽ(´ー`)ノ」のような大胆な表現をするには至りません。もっと修行する必要があるようです。

でも、自分の口癖って、無意識というか、自分自身ではなかなか気が付かないものかも…。

意識すると、わざとらしくて、きっと口癖にならない気もします。

私と同じく本「口癖」原稿を依頼されている某K浦嬢も、「そうか、そうか。」という自分のおじさん言葉には、きっと、気が付いていないだろう—な—と思ったりします。

私は…というと、仕事のきりがついてほっとした時、某女性の名前を、ふと、口ずさむことがあるみたいです。

彼女とは、付き合っただけ2年足らずだけど、例え様もない愛くるしさが、自然と彼女の名前を呼ばせるのかも知れません。

口癖の達人といえば、横綱：九官鳥、大関：鸚鵡でしょうか…。

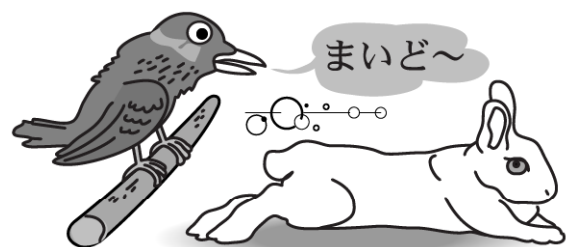
隣家の玄関先に九官鳥の「キューちゃん」がいて、朝から晩まで、日永しゃべり続けています。

ただし、これが曲者で、ただ同じ言葉を繰り返しているのではなく、非常にバリエーション豊富です。回覧板を持って隣家の呼び鈴をならすと、中から『まいど〜』。もちろんキューちゃんです。そのまま玄関先で隣家のおばさんと世間話していると、後ろから、『ハクション!』。誰か背後にいると思う程くしゃみの「音」そっくりです。しばらくすると、また後ろから『b uuu〜〜』。これまた宅配のオートバイそっくりの爆音で仰天です。挙句のはては『I wanna you…』と、何やら外タレ風に歌ってご機嫌です。気にしていると、おちおち世間話もできないので、聞き流すのが良いみたいです。

なにやら本題と外れてきたので、この辺りでやめましょう。とにかく、これで原稿書きはおしまいです。

「やれやれ、終わった、終わった…。ね、ユキ！」  
えっ？ ユキって？

ユキは2年前から家で飼っている雌のウサギです。





# 【口癖】 my Favorite Phrase

## ある日のテレビから・・・

Mr.Big Mouth

自分の口癖って何だろうか？

数週間前に「口癖」というテーマを貰って考えてみた。このように自問しても、一向に答えが出てこない。自分の口癖には自分では気づかないものである。

一方、他人の口癖はわかりやすいものである。1つの話の頭、又は最後にお約束の1フレーズを持っている人が多いようだ。しかも、その1フレーズには、意味がないことがほとんどである。例えば・・・

- 「ちょっと」・・・続く会話の内容は、決して少くはない
- 「逆に言えば」・・・それ、逆になってないだろ
- さんざん色々なことを説明した後に、「～という話なんですけど。」・・・確かに、そのとおりと、突っ込みを入れたくなるが、そこはぐっと飲み込むことにしている。

先日、あるテレビ番組を見ていて、ある芸能人の口癖に気が付いた。その芸能人はゲストとして番組に出演しており、司会者とのやりとりの中にそれを見つけた。その芸能人は司会者から何か質問されると、答える前に必ず「いや・・・」という一言を入れるのである。その後続く内容は、質問の内容を否定するものではない。気にしなければどうってことはないのだけれど、気付いてしまうと（悪い意味で）いやに耳に付く。

ここで、ハッと気が付いた。

「これ、昔、自分も言っていたかもしれない・・・」

自分も相手の言ったことを否定するためにこの一言を使っていたわけではない。とりあえず、この便利(?)な一言で受けてから、話を続けていた。何かネガティブな心理状態だった頃のこともかもしれない。

テレビの中の会話から、何気なく自分が発していた言葉が相手に悪印象を与えていたかもしれないことに気付かされた。

口癖の多くは、害はない。相手にその人を印象付けるのに役立つこともある。しかし、時には、相手に与える印象を考えてみた方がよいかもしれない。

## 確認

山本 由美

お題は「口癖」ということで、書く内容を色々と考えてはみましたが、こんなところでわが身を振りかえるチャンスを頂き、自らの口癖が実に内容の浅いものばかりだという事実気がつきました。どうにもならないので、今回は私の身近で個人的に有意義だと思った、他人の「口癖」です。

毎日の生活の中で、一日の大半の時間を占めるのがもちろん職場ですが、そこで私が一番良く聞く言葉は「確認」ではないかと思えます。「確認してからね」、「確認した?」、「確認してきてくれる?」、「ちょっとこれ確認してないでしょ」

入社して4ヶ月、毎日聞いているこの「口癖」の主は、時に優しく、通常厳しく、何よりこんな私に根気強く業務を教えてください、先輩の一人です。人は本当に伝えたい言葉は繰り返すようで、彼女から「確認」の言葉を聞かない日はありません。

一枚の書面に乗っている権利の重さや、費やされている労力や時間を理解した上で、彼女が新人の私に、一番分かっていて欲しい業務のポイントが「確認」にあるのではないかと思えます。もちろん、彼女の「確認」は口先だけでなく、その実務も私の目標とするところです。ちなみに夕方になると、二つ目の口癖「もうやだ」が増えてきますが、それは一日中全力投球の彼女の特権と認識しています。

言葉は「百聞は一見にしかず」と言われるほど無力でありながら、「言霊」という単語が生まれるほど強力でもあるようです。「口癖」になるほど繰り返すからには、自分なりに

厳選してみるのも

いいのかなと、

思います。



# 【口癖】

my Favorite Phrase

## ちよっぴり治したい口癖

東中亭 来夢

私には二つの口癖があります。二つには、何の関係もありません。

一つ目は、「うそっ！」です。

私にとって、感嘆詞の一つになっているようです。私は、人の話に驚くことがよくあります。その時、この「うそっ！」という言葉をよく発してしまいます。

しかし、この言葉は、話をしている相手にとって良い気分になるものではないと思うのです。

昔、母親に対して、この「うそっ！」という言葉が放ってしまったことがありました。そうしたら、「うそなんか言うわけじゃないっ!!」と、怒られてしまいました。

今ではこんな風に怒られることもなくなりました。その位日常的に、私はこの言葉を使っているようです。

でも、もしかしたら、まだそれほど親しくない人に対して、この言葉を使うと、昔、母親に怒られたように、「自分の言ったことを否定的に受け取っている」ように思われる可能性もあるのかな、なんて思ったりもします。

一方で、この「うそっ！」という言葉を使うことによって、「うそなんかじゃないっ!!」と怒られた経験は、私の人生においてはまだありません。

つまり、統計的には、「うそっ！」という言葉は、相手の言葉を否定するというよりは、感嘆詞として受け取られることが多いといえるのかもしれない。

二つ目は、「なんかね…」です。

これは、とても便利な言葉です。

前に文章がなくても、若干接続詞のような働きをします。あたかも前に一文あるかのように、これから自分の話す文章を導入することができるのです。

同時に、「あなたはどう思うかわからないけど、私はなんとなくね…」という意味が、この「なんかね…」という言葉には含まれていると思うのです。

そういう風に、文章を婉曲に表現にすることができるとような気がするため、私は好んで使用するのだと思います。

一方で、この「なんかね…」という言葉は、歯切れが悪く、いい加減な感じのする言葉で、公式の場で用いると、若干信用をなくす言葉だと思っています。親しくない相手に対しては、婉曲としてではなく、曖昧さや言い訳を含んだ印象を与える言葉ではないでしょうか。ですから、公の場では、私はなるべく（絶対に!）使用しないように心掛けています。

ですが、思わず、口に出てしまうのが口癖です。直すにこしたことはないのでしょうか。

結論として、この二つの口癖は、両方とも、あまりいい感じがするものではないな、と思います。自分の口癖を考えるこのような機会を好機と考え、この二つの口癖は改めたいと考えています。

一方で、口癖は誰にでもあるもので、その人のパーソナリティを表すもの、と考えれば面白いものではないでしょうか。そう考えると、一つ、二つ持っただけでもよいものだなとも思いました。

いずれにしても、どうせ口癖を持つことになるなら、相手が良い気分になれるようなものを持たせたら最高ですね。その言葉を口にするたび、相手が喜んでくれれば、あえて直す必要もないのかもしれない。

数年後、「うそっ！」と、「なんかね…」が治って、そんな良い口癖を持てていれば幸せだなと思います。

